



伊賀線全通百周年

伊賀線 全線開通 100周年

日本で初めて、新橋〜横浜間に鉄道が開通して今年で150年。伊賀鉄道伊賀線も全線が開通してから今年でちょうど100年目の節目の年を迎えます。今回、そんな伊賀線の歴史を紹介します。

伊賀線の歴史

伊賀地域では、1890(明治23)年、関西鉄道により三雲〜柘植間が開通し、三重県で初めての鉄道駅として柘植駅が設置されました。その後、1897(明治30)年には同鉄道により、現在のJR関西本線のルートで柘植〜加茂間が開通し、佐那具、上野(現・伊賀上野)、島ヶ原の各駅が設けられました。

地域には鉄道が開通しましたが、上野駅と上野中心部の間に距離があったため、開業時から連絡が課題とされ、1916(大正5)年に、伊賀軌道により上野駅連絡所(現・伊賀上野)〜上野町(現・上野市)間

沿線に残る歴史的建造物

時代に合わせて車両は新しくなり、現在は切符も自動券売機で買うことができる伊賀線ですが、沿線には歴史を感じる建造物が今も残っています。

昔の姿を残すこれらの建造物のうちには、国の登録有形文化財に登録されているものもあり、貴重な物であると同時に、現在も伊賀線

を支えています。(詳しくは28ページ「伊賀市の文化財」をご覧ください。)



▲1962年 撮影(上野市駅東方踏切)



▲1962年 撮影



▲1983年 撮影

名張行きがあった!?

ところで、冒頭で「上野町から名張まで」と紹介しましたが、「伊賀線って、伊賀神戸駅までなのでは?」と思った人もいるのではないのでしょうか。

現在、忍者市駅(上野市駅)から名張方面へ向かう時には、伊賀神戸駅で電車を乗り換える必要がありますが、実は、伊賀線は1964(昭和39)年まで、伊賀神戸からさらに名張市内まで線路が通っていました。廃線から50年以上が経ち、当時の名残は少なくなりましたが、かつて電車が走っていたときの橋や路盤が現在も一部残っています。



▶廃線区間に残る橋の跡(神戸地区)

伊賀線の未来に向けて

100周年事業の一環として、伊賀白鳳高等学校工芸部の皆さんに木製のベンチを作ってもらった。7月18日の100周年の日に合わせて茅町駅に設置する準備を進めています。工芸部長の森本泰成さんにお話を伺いました。

「駅を利用する人が快適に過ごせるような温かみのあるベンチを制作しています。学校のみんなに意見を聞いたり、机や椅子の資料を参考に背もたれの角度を工夫したりしました。『あのベンチ良かったなあ』と印象に残るベンチになってほしいと思います。」



制作に取り組む伊賀白鳳高等学校工芸部の皆さん



鉄道は市民の安心感の拠りどころであるとともに、まちの活力の源です。100周年を機に、鉄道が存在することの意義をみんなで考えてみませんか。そして、地域の経済や文化を育んでくれた大きな財産として、これからもずっと大切に残していきたいものですね。

【伊賀線関係 略年表】

- 1916年 上野駅連絡所(現・伊賀上野)〜上野町(現・上野市)間開業
- 1922年 上野町〜名張(後の西名張)間延伸開業
- 1926年 伊賀上野〜名張間全線電化
- 1930年 参宮急行電鉄の榛原〜伊賀神戸間開通に伴い接続駅として伊賀神戸駅開業
- 1941年 上野町駅が上野市駅に改称
- 1944年 近畿日本鉄道が発足。近畿日本鉄道の伊賀線となる
- 1964年 伊賀神戸〜西名張間運輸営業廃止
- 2007年 伊賀鉄道設立。上下分離方式による新事業形態へ移行
- 2016年 伊賀線開業100周年
- 2017年 公有民営方式へ事業形態を変更
- 2018年 「四十九駅」開業
- 2019年 上野市駅に愛称「忍者市駅」
- 2022年 **伊賀線全線開通100周年**



1970年代 撮影
▲昔は貨物列車もあり、伊賀上野駅を経由して国鉄(現・JR)から来た貨物を運んでいました。

【問い合わせ】
交通政策課
TEL 22・9663
FAX 22・9694
✉ koutsuu@city.iga.lg.jp

